

旧北陸線トンネル群が登録文化財に

文部科学省に設置される文化審議会は、11月20日に開催された同審議会の文化財分科会において登録有形文化財（建造物）の新たな登録物件について審議し、敦賀市から南越前町にかけて現存する旧北陸線トンネル群13件を登録するよう文部科学大臣に答申を行ったことが発表されました。南越前町内では湯尾トンネル、山中ロックシェッド、山中トンネルの3件が登録される見込みで、町内における登録文化財件数は17件となります。



▲山中トンネル

旧北陸線は明治26（1893）年、当時の鉄道庁によって着工し、同29年に敦賀―福井間が開通しました。なかでも「杉津線」と呼ばれた敦賀―今庄間は、標高270mの山中峠を往來する急勾配の難所で、敦賀市榎曲から南越前町湯尾にかけ13本のトンネルのほか築堤や橋梁、暗



▶湯尾トンネル



▶山中ロックシェッド

山中トンネル 延長1170mと現存する11本のトンネルで最も長く、当時は国内屈指の規模を誇った煉瓦造の鉄道隧道でした。固い岩盤や湧水による崩落など難工事の末に完成しました。

山中トンネル

湯尾峠に位置する敦賀―福井間最後のトンネルです。延長は368m、入口は切石積みで、内壁は煉瓦造。
山中ロックシェッド 山中トンネルから約1キロ北東に位置する延長65mのロックシェッド（落石覆工）で、国内初のプレストレストコンクリート造の建造物として昭和28（1953）年に造られました。

湯尾トンネル

湯尾峠に位置する敦賀―福井間最後のトンネルです。延長は368m、入口は切石積みで、内壁は煉瓦造。

山中トンネル

延長1170mと現存する11本のトンネルで最も長く、当時は国内屈指の規模を誇った煉瓦造の鉄道隧道でした。固い岩盤や湧水による崩落など難工事の末に完成しました。

河野北前船主通り案内の会 認定式 12月2日

平成26年7月から募集を開始し、北前船や右近家等に関する資料を基に講座を数回受講され、平成27年8月から右近家の来館者に実践研修による案内活動を実施してきました。この度、11月1日付で4名の方が、「河野北前船主通り案内の会」の案内人として認定証を川野町長から授与され、ジャンパー等を手渡されました。会を代表して寺下貢さんは、「最初は恥ずかしさがあったが、熱心に聞いてもらえるので楽しく感じるようになり、お客様から感謝の声を聴くと嬉しいです。我々が基盤を作り、今後も続く人が出てきてほしいです」と話され、川野町長は「今後の活躍に大いに期待します」と激励しました。



写真左から 千馬 寺下 田中 和田 仁視さん(河野) 貢さん(河野) 久子さん(鯖江市) 耕一さん(越前町)